

2020年度 自己評価結果表

釧路キリスト教学園 釧路めぐみ幼稚園

1、 本園の教育目標

神様の愛と恵みのもとに生かされている喜びを分かち合う。

神様が愛をもって造られた世界は、恵みに満ちています。特に神様のかたちに造られた私たちの中には神様の限りない愛がこめられています。その神様の愛と恵みに出会い、感動と喜びを体験し、自分自身がかけがえのない人間として生かされていることを知る時、他の人もまた同じように尊い命に生きていることに気づくのです。

また、互いにその喜びを分かち合い、共に生きることを具体的に体験していきます。

園生活を通して、神様の愛のもとで先生や友達と喜びを共に体験し、自分を愛し、他の人を愛し、自然を大切にす、調和のとれた人間性の教育を目的とします。

4つのめあて

- ① たくましい心身と生きる力を培う。
- ② ひとりひとりを大切にし自主的な子どもを育む。
- ③ 恵まれた自然環境を通して、創造性と感性を豊かにする。
- ④ 神様の愛に気づき、共に生きる喜びを体験する。

2、 本年度、重点的に取り組む目標・計画

課題	具体的な取り組み方法
保育の計画性	<ul style="list-style-type: none">・ 長期的な視野を持ち、先を見通した指導計画を立て、実践していく・ 指導計画はマンネリ化しないよう、常に自分の保育の反省評価を行い、幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるように作成する・ 遊びをマンネリ化させず、教師が遊びを具体的に提供することで、幼児が主体的にその遊びに参加し、のびのびと遊ぶようになる・ 保育日誌の形態をかえて、指導計画を適切に文章化し、きめの細かい保育日誌を目指す・ 幼児の発達や生活を見通して環境構成をする・ 安全で清潔感のある環境構成を心掛ける・ 幼児の発想を柔軟に取り入れて保育室の装飾や展示を考えていく
教師としての 資質や能力・ 良識・適性	<ul style="list-style-type: none">・ 個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解できる・ より高度な専門知識や技能を身に付けるために自己研鑽を行っていく・ 会議の時は自分の意見を積極的に述べる・ 仕事の手順をよく考え、能率よくかつ責任を持って確実にを行うために工夫する・ 周囲の恵まれた環境を生かした保育が出来るよう、環境に目を向ける
研修と研究	<ul style="list-style-type: none">・ 園内研修を意欲的に行う
その他	<ul style="list-style-type: none">・ 担任・補助教諭がコミュニケーションを十分に取り、より良い教育・保育を目指す

3、 評価項目の達成及び取組み状況（達成度・・・4段階評価）

課題	具体的な取り組み方法	達成度
保育の 計画性	長期的な視野を持ち、先を見通した上で指導計画を立て、実践していく	△
	指導計画はマンネリ化しないよう、常に自分の保育の反省評価を行い、幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるように作成する	○
	遊びをマンネリ化させず、教師が遊びを具体的に提供することで、幼児が主体的にその遊びに参加し、のびのびと遊ぶようになる	△
	保育日誌の形態をかえて、指導計画を適切に文章化し、きめの細かい保育日誌を目指す	○
	幼児の発達や生活を見通して環境構成をする	△
	安全で清潔感のある環境構成を心掛ける	◎
	幼児の発想を柔軟に取り入れて保育室の装飾や展示を考えていく	◎
取組み 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・保育日誌・指導計画及び評価・反省は週1程度、園長主幹が目を通し、その都度指導しているが、見通しを持った記述も難しかった。 ・装飾をこまめに取り替えたり、遊具の置き場所を工夫したり、様々な環境構成をした。 	
教師とし ての資質 や能力・ 良識・適 性	個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解できる	△
	より高度な専門知識や技能を身に付けるために自己研鑽を行っていく	△
	会議の時は自分の意見を積極的に述べる	△
	仕事の手順をよく考え、能率よくかつ責任を持って確実にを行うために工夫する	△
	周囲の恵まれた環境を生かした保育が出来るよう、環境に目を向ける	△
取組み 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教師会の打ち合わせをこまめに行い、幼児の姿にもしっかりと目を向け、情報交換・共通理解を行った。 ・退職者が出たため、自己研鑽を行う時間が取れなかった。 	
研修と研究	園内研修を意欲的に行う	△
取組み 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道教育庁幼児教育推進センターからの講師派遣による園内研修は、パート教諭も参加し行うことが出来て、学び合う場となった。 ・園内研修は教師会で月1回行う予定だったが、後半は出来なかった。その代わりに、オンデマンドの研修を受ける。 	
その他	担任・補助教諭がコミュニケーションを十分に取り、より良い教育・保育を目指す	△
取組み 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学年によって、コミュニケーションが上手く取れたところとそうでないところがあった。その方法はそれぞれで工夫して行う必要がある。 	

4、 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症のため、休園となったり行事なども中止したり、また工夫したりしての1年となった。そのため、当初の教育課程や指導計画を変更せざるを得なかった。けれど、そういう中であって教師会でまずコロナから子ども達を守るための対応を優先すること、そして子ども達の活動や経験が狭まらないように新しい試みも含めて、柔軟に指導計画を立て、園生活の充実を図ることを心がけた。
- ・もう一つ大きなことは、教師の退職が4名もあり途中採用も試みるがなかなか人材が得られず、パートを増やし教職員でやりくりしながらの一年となった。
- ・また、園内研修に十分に時間が取れず、教師自身の質向上に欠ける面はあった。
- ・こういったマイナス面があったにも拘らず、教職員が互いに補い合いながら情報交換、共通理解を常に行い、幼児教育・保育の質を落とさないように行ってきたが、新任の教育・指導が十分に出来ず、各教師の自己評価が前年度より低くなったその現われと言える。

5、 今後取り組むべき課題

- ①新年度は、新任教師も加わることから、教育目標・教育課程に関する研修に重点を置き、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」を踏まえた、指導計画の充実を図る。
- ②充実した指導計画を作成し、それに沿って先を見通した環境構成、遊びや幼児が主体的に関わりたくなるような活動展開を提供する。
- ③特別支援児（含発達遅れ）への対応を充実させるために、その体制を整え、個々の指導計画について教職員の共通理解、情報交換を密にする。又、保護者や関係機関との連携を繋げていく。
- ④自己評価に対する評価・レベルが個々に異なるため、数値に差がある。自己評価は毎学期行っているが、自己評価の捉え方を学び、正しく評価が出来るようにする。

めぐみ幼稚園では、保護者・地域住民・評議委員により構成される、学校関係者評価委員会を設置しています。

学校関係者評価の実施においては、評価に先立ち、保育参観、意見交換などにより園の状況について共通理解を深めています。

本年度の自己評価の結果、およびそれを踏まえた今度の改善策についての評価が学校関係者評価委員会により実施されました。

学校関係者評価委員会2020年度評価

(1) 公開保育を通して

- ① 支援が必要な子どもに対して、他の子どもがサポートしている姿に、教師と子どもとの信頼関係が出来ていることを感じた。又、その子達に対しての園全体の対応を日々話し合い、時には専門機関と連携して行っていることは大事である。
- ② 年少組は人数が多いが、クラス全体が落ち着いており、クラス作りは教師の指導力によるところが大きい。経験年数もあると思うが、教師の質・能力をさらに高めて欲しい。
- ③ いつも思うことだが先生達の言葉遣いが丁寧で気持ちよい。そして、その言葉が子ども達の中に蓄えられていることを考えると、幼児教育の重要性を感じ、今後も継続してほしい。

(2) 自己評価について

- ① 今年度途中退職者が4名も出て、教師不足の中で全体的に自己評価のレベルが下がった状況ではあるが、教職員・パートが互いに補い合い、情報交換・共通理解を持ち、保育の質を落とさないように努めてきた様子が伺える。
- ② 人員不足ということから、教職員みんなが揃うことが難しい。
- ③ 新型コロナウイルス感染予防のため、休園が続いたり、行事の中止・工夫したりする中で、子ども達の活動や体験が狭まらないように柔軟に指導計画を立て、新しい試みをしたり、今まで出来なかったことに取り組んだりして、子ども達の園生活の充実を図ったことは次に繋がるものである。
- ④ コロナの関係で、ほとんど地域交流・小学校との交流が出来なかったのは残念である。